

平成 23 年度東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修 (複合領域コース) 参加報告

三重大学生物資源学研究科共生環境学専攻 野呂明美
noro@bio.mie-u.ac.jp

三重大学共通教育センター技術職員室 藤森 豊
yutaf@com.mie-u.ac.jp

三重大学大学院生物資源学研究科附属紀伊・黒潮生命地域
フィールドサイエンスセンター技術部演習林グループ 山本拓史
y-hirosi@bio.mie-u.ac.jp

三重大学大学院生物資源学研究科附属紀伊・黒潮生命地域
フィールドサイエンスセンター技術部農場グループ 吉田智晴
t-yosida@bio.mie-u.ac.jp

三重大学工学部工学研究科 技術部 機器・分析グループ 和藤 浩
watoh@arch.mie-u.ac.jp

1. 開催日時等

開催日程：平成 23 年 11 月 9 日（水）～平成 23 年 11 月 11 日（金）

開催場所：核融合科学研究所 シミュレーション科学研究棟 1 階 102 会議室

受講者数：32 名（17 機関）

2. 研修プログラム

1 日目

開講式，写真撮影，オリエンテーション
講義 1 核融合科学研究所の安全管理
講義 2 安全・快適に働くための法ルール
研修受講者プレゼンテーション
大型ヘリカル実験棟見学
意見交換会

2 日目

KYT（危険予知トレーニング）講習
講義 ゼロ災運動の目指すもの
実技 指差し呼称、健康問いかけ KY、KYT 基礎 4R 法 1R まで
KYT 基礎 4R 法、ヒヤリハットイラスト作成、終礼

3 日目

KYT（危険予知トレーニング）講習
実技 1 人 4RKYT、ワンポイント KYT
ヒヤリハット KYT、自問自答カード 1 人 KYT 問題解決 4R 法
閉講式

3. 研修の概要

技術職員が職場において安全に職務を行うために、安全管理をどのように行えばいいか（核融合科学

研究所の事例を参考に)、労働安全衛生法などの法令ではどのように定められているのかについて学んだ。また、事故を予防するために高い成果を上げている「KYT (危険予知トレーニング)」を用いた危険予知活動の方法について、実習を行いながら学んだ。

受講者全員がパワーポイントを使って、あらかじめ課題とされていた自分の職場環境などを紹介したファイルを投影してプレゼンテーションを行った。また、核融合科学研究所にある大型ヘリカル実験棟の見学も行われた(写真-1に見学した大型ヘリカル装置を示す)。

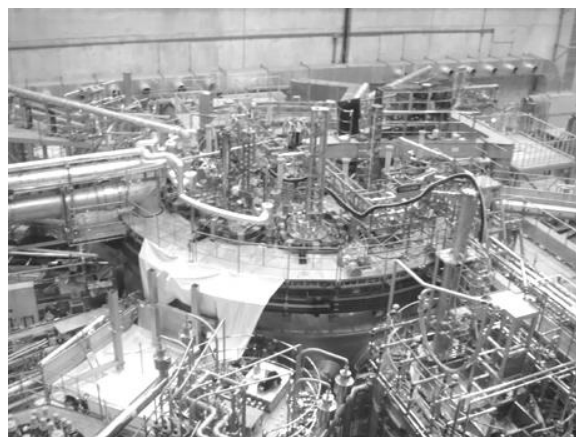


写真-1 見学した大型ヘリカル装置

4. KYT 講習についての報告

本研修では、KTY 講習がメインの研修内容であった。「中央労働災害防止協会」より来ていただいた2人の講師トレーナーより講習を受けた。講習は、職場の作業状況の中に潜む危険要因とそれが引き起こす現象を、さまざまな作業状況の事例を描いたイラストシートを使って、グループごとに話し合い、考え合い、分かり合って、危険のポイントや安全確認のための重点実施項目を指差唱和・指差呼称で確認する、といった実習形式のものであった。いくつかのKYTの手法について手順や方法等について学ぶことができた(写真-2、3に講義の風景を、写真-4に講習会で使用したテキストの一例を、写真-5に実習の風景をそれぞれ示す)。

なお、受講者全員に「KYT 講習トレーナー資格」が与えられた。

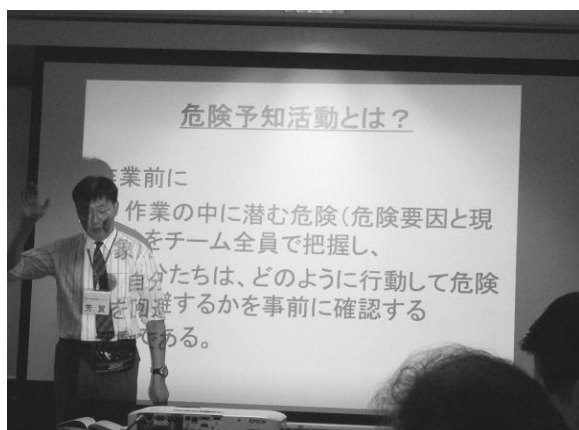


写真-2 講義の風景(a)



写真-3 講義の風景(b)



写真-4 講習会で使用したテキストの一例



写真-5 実習の風景

5. 研修を終えて

今回の KYT 講習では何がどう危険なのか潜在危険を発見・予知し、チームで行動目標を定め、実行する手法を学んだ。また、ゼロ災であることが如何に大切であるか、一人一人かけがえのない命を大事にする職場環境を作り上げることが経済面においてもプラスになるという知見を得た。朝礼を行うことにより適度な緊張感が生まれ労災防止につながるということが実習を通じて体感でき実り多い研修であった。私は職場で衛生管理者として巡視を行っているが、「この状況のどこに危険が潜んでいるのか」と考えながら巡視ようになった。自己紹介プレゼンテーションで震災に備えて備蓄する物品を保管する部屋を確保するのが難しいが何か良い案は無いかと問いかけたところ、核研の技術部長より「光熱水量など共通でプールしている財源を研究費として配分し、その配分額に応じた額を部屋の使用量として徴収する。その際、部屋に応じて条件の良い部屋と悪い部屋では平米単価に差をつけること」など助言を頂いた。この方策により部屋の稼働率が上がり、無駄が無くなる名案だと思った。取り入れられるかどうか分からないがこの方策を学部の担当者に伝えた。(野呂)

私の職場では、普段作業を行う人数が自分一人しかおらず、グループで安全確認などを行うことはできないので、ここで学んだことを十分に生かすことができないかもしれない。しかし、安全な作業環境のために、安全確認のやり方や危険を予知して事故を防止していく方法を学べたことは、大変参考になった。また、「1人KYT」という方法もあったので、今後、活用していきたい。(藤森)

この KYT 講習において危険予知活動のトレーニングを受け、自分の頭で理解できている危険を他者と共有する難しさを知った。私の職場は、山での作業のため不安全状態な環境にあり不安全行動な作業になりがちである。その状況において、ただ単に「危険だから注意しろ・注意する」ではなく、今回の講習で学んだ「どうして危険なのか」、「どう注意したらいいのか」などの危険を具体化し、目標化、実行化していく手順や方法を、グループや自分自身への安全確認として今後活用していきたい。(山本)

今回の KYT 講習を受けて痛感したのは私が日頃無意識に不安全な行動を見過ごしている事である。私の職場は農場で使用する機械の中には古いために安全設計がなされていないが実習を行うには必要な物があるが、そのためには主に行動面の対策を行う危険予知活動が特に重要である事を認識した。また、実習以外に一人で行う作業が多いため、「1人KTY」の手法も有効に活用していきたい。(吉田)

私は、職場は主に実験室での学生との実験作業であり、今回、研修で学んだグループでの活動を行うことは難しい環境ではあるが、危険な箇所を即座に判断する能力は少しばかりは習得できたので、危険箇所などあった場合、学生に的確に伝えるなどして、今後の研究室業務に役立てていきたい。なお、実験室では、私1人で作業することもあり、これまで行っていなかった指差し呼称などは実践していきたいと思う。また、私は衛生管理巡視業務も行っており、今後の巡視の際は、本研修で学んだことを頭に入れ、小さな危険箇所なども指摘していきたいと考えている。(和藤)